

佐藤厚氏のコメントに対する回答

石吉岩（韓国 金剛大学校）

1. 慧遠は『楞伽經』説に依拠して、如来蔵と阿梨耶識とは異ならないと主張する。この時、如来蔵に真・妄がすべて一体化されている。反面、法蔵は如来蔵を真如と見なす。この時、如来蔵に妄はないと言える。ただ法蔵は新たに「一如来蔵心」という概念を提示して「如来蔵」概念を拡張し、これにより真・妄をすべて包括する。すなわち法蔵においては、如来蔵は真であるが、一如来蔵心は真・妄をすべて包摂した概念である。つまり如来蔵と一如来蔵心の関係により、如来蔵を生死造作の原因と見なすのである。

2. 本来性と現象態とを対比させて説明できると思う。本来性とは、それ自体としては無相無名であり一切を絶したものである。ところで、この本来性である理法が主体により捉えられる時に、相・名を持つようになる部分、つまり、功德相を「照（照らすこと）」と表現する。言い換えれば、仏の悟り（理）が、教えとして伝えられること、これが「照」という概念で表現されると考えられる。

3. 性起それ自体が真の起である。しかし法蔵において如来蔵縁起は真が妄を起こす。この点で違いがある。ただこれは『起信論義記』の段階での問題であり、『入楞伽心玄義』になると、性起の立場と同一になるのではないかと考えられる。法蔵は、このために『義記』では如来蔵思想を如来蔵縁起宗と呼ぶが、『入楞伽心玄義』では実相宗と表現を変えている。

4. 佐藤先生のコメントにおいて、二つ目の『曇延疏』の解釈上の誤謬についての指摘は、論者の誤解に基づく誤訳であるため、先生が提示した翻訳をそのまま受け入れたと思う。

（翻訳担当：佐藤厚）